

## 「出題の意図」

<p>選抜区分</p>	<p>2020年度 (選抜区分：推薦入試) 文学部 人間関係学科 (科目名：小論文)</p>
<p>出題の意図 (評価のポイント)</p>	<p>問1 下線部①について、これまで考えられていた理由と、さらに明らかになった別の理由とは何を指すのか、本文に即して説明しなさい。</p> <p><u>But there is another reason for us to rethink our relationships with our devices.</u></p> <p><u>しかし、私たちが自分のデバイスと私たちの関係を再考するもう一つの理由があります。</u></p> <p>英語の訳は正確にできていなくても、文意を読み取れており、ふたつの理由について、本文に即して十分に説明されていればよい。ポイントとしては、従来の議論で焦点が当てられていたホルモン（ドーパミン）と、新しく明らかになったホルモン（コルチゾール）の違いとそれぞれの作用、たとえば中毒や依存と生理的ストレスなどについてふれられていること。</p> <p>問2 下線部②の、phantom vibrations（幻の振動）とはなにか、どういう状態になるとそれが起きるのか、本文に即して説明しなさい。</p> <p>英語の訳は正確にできていなくても、文意を読み取れていればよい。解答としては「phantom vibrations とはなにか」と「どういう状態になるとそれが起こるのか」のふたつに答える必要がある。</p> <p>問3 本文では、スマートフォンの事例をもとに、本来は適応的であった人間の行動や生理反応が、現代社会の中で不適応を起こしてしまう問題について取り上げている。これと同様に、本来は適応的であった行動や生理反応が、現代社会において不適応を起こしてしまう、別の事例をひとつ考え、さらにそうした不適応や悪循環を断ち切るためには、どうすれば良いのかを800字以内で論述しなさい。(120点)</p> <p>本学科の英語を用いた小論文は、必ずしも英訳能力だけを問う意図で出題されているわけではない、むしろ課題文と設問を読みこなせば、脚注訳や日本語訳の部分だけで十分課題に答えられるように作問した。</p> <p>同様に、本文は生理学的な内容をふくみ、専門用語も多く出てくるが、それに惑わされないようにしてほしい。そうした知識を前提にしなくても、問いの意味をきちんと理解できていれば、回答できるはずである。</p> <p>小論文では、特別な知識を問うたり、ひとつしかない正解を見つけ出したりすることが求めているわけではない。むしろ与えられた資料を読み込み、内容を理解したうえで、自分の知識の範囲で適切な事例を考えて、設問に過不足なく答えることが求められている。</p>

この問いの論述としては、本来、環境に対して適応的に進化してきた人間の行動や能力が、新しい社会の変化などによってうまく働かなくなった事例を上げ、その解決方法を書けばよいことになる。

事例は自由に考えてよいが、文脈に沿って考えれば、たとえば以下のようなものが上げられるだろう。

本来は食料が貴重な時には生きるために必要な食欲が、食料が豊富な現代社会では生活習慣病の原因になっている。本来は走る以上の早さで移動することがなかった人間が、車を発明することで認知能力を超える速度を手に入れた。本来は大家族で、集団で子供を育てるように進化してきた人間が、核家族化が進み父親は共同体の外で仕事をするようになり母親だけの子育てを強いられるようになった。本来は夜が来て暗くなれば寝るように体内時計は働くが、夜遅くなってもいつまでも明るいところで暮らし、睡眠障害の原因となっている。本来は狩猟のために重要だった射幸心が、ギャンブルの誕生によって社会的な不適応行動を生んだ。本来は意欲を生むはずの報酬系のホルモン＝脳内麻薬が、人工的に覚醒剤などの麻薬が作られるようになり麻薬依存症を引き起こした。

これらの不適応や悪循環を断ち切るアイデアについては、仮に実証性を欠き、机上のものであっても、高校生の知識のレベルで考え、論理的に筋道が通っていれば評価の対象とする。